

【2026年度入学者選抜 出題の意図等（一般選抜）】

科 目	国語（前期）	国語（後期）	英語（前期）	英語（後期）	数学（前期）	数学（後期）
入試問題 全体の 意図	主に、次の事項を確認することを目的としている。 (1) 適切な語彙力を身につけ、使用することができるか。 (2) 言葉の意味・特徴を正確に理解しており、正しい用途で使用するすることができるか。 (3) 文章を正確に読解し、論理的に思考することができるか。 (4) 基礎的な知識・情報を身につけているか。	主に、次の事項をはかることを目的としている。 (1) 言葉の特徴を理解し適切に使用できているか。 (2) 情報の取り扱い方ができているか。 (3) 思考し、判断し、論理的に考え書くことができているか。 (4) 文章の構成や論理の展開を適切に理解しているか。	発音・アクセント、語彙、文法・語法、語句整序、対話表現、長文読解という多様な出題形式を通じて、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能の基盤となる英語運用能力を総合的に測ることをねらいとしている。 出題する英文は実用文・説明文など特定のジャンルに偏らないよう選定し、語彙・文法の難易度にも幅を持たせることで、受験生の学力を適切に判別できるよう作問している。	前期日程と同様に、発音・アクセント、語彙、文法・語法、対話表現、長文読解という多様な出題形式を通じて4技能の基盤となる英語運用能力を総合的に測るとともに、後期日程では自由英作文を課すことで、「書くこと」の力をより直接的に評価する構成としている。 出題する英文は論説文など特定のジャンルに偏らないよう選定し、語彙・文法の難易度にも幅を持たせることで、受験生の学力を適切に判別できるよう作問している。	数学の基本的な概念や原理・法則の理解、正確に計算する技能と、それらを活用して問題を解決する力を評価することを目的としている。特に、本学で商学を学ぶ基盤となる、数量やデータを正確に読み取り、数量間の関係を数学的に捉え、根拠に基づいて論理的に考察・判断する力を重視する。問題を通して、与えられた条件を整理し、既習の知識を関連付けながら適切な解法を選択する力を問う。これらを通じて、大学での学修に必要な数理的思考力と、課題に筋道を立てて取り組む力を確認する。	数学の基本的な概念や原理・法則の理解、正確に計算する技能と、それらを活用して問題を解決する力を評価することを目的としている。
各大問の ねらい	【一】 素材となる文章は、人間がテレビからどのような影響を受けるのか、人間がテレビを通して見る「世界」について述べたものである。 選択問題においては、文章が何を説明しているのかを理解する読解力が必要となる。 受験生の論理的な思考力・読解力・語彙力・漢字力を問う問題となっている。 【二】 素材となる文章は、近代資本主義の構造において、日本が最も早く資本主義の限界に到達しており、今後どのような社会になっていく可能性があるのかを述べたものである。 経済に関する基礎的な知識や考え方を、問題文から丁寧に読み解くことが必要となる問題となっている。 【三】 四字熟語の意味の理解、正しい漢字を把握している必要がある。また、ことわざ・慣用句については正しい形でことわざ・慣用句を覚えている必要がある。 受験生が正しい四字熟語、ことわ	第一問では、「読書の可能性」というテーマでレポートを書かせるための[構想メモ]を作成することをねらいとした。 具体的には、①「読書の現状はどうなっているのか」という問題に、グラフから必要な情報を読み取らせ解答させた。一方、②「読書の可能性とは何か」に関する2つの文献資料の読解を求めた。この作業の上に、③「おわりに」として、「読書の可能性」について、①と②を根拠に論述することを求めた。 第二問では、樋口一葉を取り上げた。人物研究とレポート作成の仕方についての生徒と先生との会話を読ませ、その過程を共有しレポート文を作成させることをねらいとした。 具体的には、作成の観点を、一葉が「なぜ学校をやめなければならなかったのか」に設定し、2つの文献資料を用意した。教科横断的な観点からも出題をした。この作業の上に、270字以内(句読点や括弧を含む)でレポート文を作成させた。	Part1(発音・アクセント問題) 単語の発音及びアクセントの位置に関する正確な知識を測るものとなっている。 基本語彙を対象とした発音・アクセントの識別問題で構成している。 Part2(語彙問題) 語彙に関する知識と、文中における語の意味を的確に捉える力を測るものとなっている。 日本語の語句に対応する英語表現を選ぶ問題、下線部の語とほぼ同じ意味を持つ語句を選ぶ問題、文脈に適した語句で空所を補う問題で構成している。 Part3(文法・語法問題) 基礎から応用までの文法事項に関する正確な知識を測るものとなっている。 文法・語法の理解を問う空所補充・正誤判断形式の問題で構成している。 Part4(語句整序問題) 文法構造を踏まえて英文を正しく組み立てる力を測るものとなっている。	Part1(発音・アクセント問題) 単語の発音及びアクセントの位置に関する正確な知識を測るものとなっている。 基本語彙を対象とした発音・アクセントの識別問題で構成している。 Part2(語彙問題) 語彙に関する知識と、文中における語の意味を的確に捉える力を測るものとなっている。 日本語の語句に対応する英語表現を選ぶ問題、下線部の語とほぼ同じ意味を持つ語句を選ぶ問題、文脈に適した語句で空所を補う問題で構成している。 Part3(文法・語法問題) 基礎から応用までの文法事項に関する正確な知識を測るものとなっている。 文法・語法の理解を問う空所補充・正誤判断形式の問題で構成している。 Part4(対話文空所補充問題) 日常的な場面における文脈を理解し、状況に応じた適切な表現を判断する力を測るものとなっている。	問Ⅰ 整式の展開や因数分解、式の値を求める計算を通して、式の構造を捉え、目的に応じて式を変形する力を確認する問題を出題した。 問Ⅱ 文章で与えられた数量の条件を文字式に表し、計算法則を用いて処理するとともに、計算結果から規則性を見いだす力を確認する問題を出題した。 問Ⅲ 式の関係を捉え、未知の数を決定・検証する力を確認する問題を出題した。 問Ⅳ 二次関数のグラフの形や頂点を捉え、定義域の制限に注意しながら、最大値・最小値を判断する力を確認する問題を出題した。 問Ⅴ 円に内接する四角形の性質と余弦定理を関連付けて角の余弦を求め、三角比を用いて面積を求める力を確認する問題を出題した。 問Ⅵ 平均値・分散・標準偏差の意味と関係を理解し、二つの集団のデータの個数、平均値、標準偏差か	問Ⅰ 基本的な計算力を測る問題や数式の理解力を確認する問題を出題した。 問Ⅱ 絶対値と数式の理解を確認する問題を出題した。 問Ⅲ 度数と代表値との関係の理解を確認する問題を出題した。 問Ⅳ 順列と積の法則の理解を確認する問題を出題した。 問Ⅴ 余弦定理と三角関数、図形の性質の理解を確認する問題を出題した。 問Ⅵ 一次関数と三角比を組合せた思考力を測る問題として出題した。 問Ⅶ グラフの座標から二次関数として表現する応用力を測る問題として出題した。 問Ⅷ 文字式や場合分けから結論を論理的に導く力を測る問題として出題した。

科 目	国語（前期）	国語（後期）	英語（前期）	英語（後期）	数学（前期）	数学（後期）
	ざ・慣用句を把握しているかを問う問題となっている。		与えられた語句を文法的・意味的に正しい順序に並び替える問題で構成している。 Part5(対話文空所補充問題) 日常的な場面における文脈を理解し、状況に応じた適切な表現を判断する力を測るものとなっている。 対話の流れに即した空所補充問題で構成している。 Part6(読解問題) 文章全体の構成や要点を正確に読み取る力を測るものとなっている。 実用文・説明文を題材とし、内容の正誤や要旨を問う問題で構成している。	対話の流れに即した空所補充問題で構成している。 Part5(読解問題) 文章全体の構成や要点を正確に読み取る力を測るものとなっている。 実用文・説明文を題材とし、内容の正誤や要旨を問う問題で構成している。 Part6(英作問題) 自分の考えを論理的に構成し、英語で表現する力を測るものとなっている。 与えられた問いに対して自由に英文を作成する問題で構成している。	ら、集団全体の平均値と分散を求める力を確認する問題を出題した。 問Ⅶ 条件に応じて場合分けを行い、順列や和・積の法則を用いて漏れや重複なく数える力を確認する問題を出題した。 問Ⅷ 円の接線の性質と三平方の定理を用いて、線分の長さや三角形の高さを求める力を確認する問題を出題した。	

【2026年度入学者選抜 出題の意図等（一般選抜）】

科 目	日本史（前期）	日本史（後期）	公民（前期）	世界史（前期）	世界史（後期）
入試問題 全体の 意図	日本史に関する基礎的・基本的な知識と、歴史的事象の背景や相互の関係を理解する力を測ることを目的としている。 出題範囲は原始・古代から近現代までとし、政治・外交・社会・文化・経済など特定の時代や分野に偏らないよう配慮した。特に本学が商学部であることを踏まえ、近世の商業政策や商品経済、明治期の財政制度、第一次世界大戦後の社会・経済、戦後の高度経済成長や国際経済など、経済・産業・社会の変化についても重視した。 また、単なる語句の暗記だけではなく、年表、文章、複数の選択肢を用い、出来事の年代的な位置付けや制度・政策の内容、歴史的変化を判断させる問題を取り入れた。	それぞれの時代における基本的な歴史の流れ、用語、社会制度の枠組みなどに関する知識力や理解力を問うことを意図している。 出題分野は、時代区分として原始・古代から近現代までの範囲とし、政治・経済・外交・文化・社会などの各分野から出題する。 群馬県の遺跡や商学部と関わりの深い経済や社会制度（不平等条約改正問題、戦後の経済改革、人権問題等）に触れている。 経営学や会計学を学ぶ前提として、商学部で学修する教養科目に必要な日本史の基礎知識力並びに専門科目を学ぶ上で必要となる日本史の理解力を確認する。	公共に対する基本的な用語の理解、社会問題解決の思考・判断力を重視している。 現在、そしてこれまでの社会のあり方、問題を的確に読み解き、適切な解決法を結び付ける力を測定することを目的としている。	高等学校における世界史の学習を踏まえ、古代から現代に至る世界の歴史について、基礎的な知識と理解力を問う。 政治・経済・社会・文化など幅広い分野から出題し、歴史的事象の背景や相互の関連性を理解するとともに、現代社会の諸課題を歴史的な視点から捉えるための基礎的な学力を確認する。	世界史の社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせているかを焦点に、世界史の基礎力及び用語の理解力を問う。 特に、世界史の古代から現代までのあらゆる世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象や世界の歴史に関する論理的思考力を確かめることに重点を置いた。
各大問の ねらい	第Ⅰ問 弥生時代から奈良時代までを対象とし、農耕社会の成立、邪馬台国、ヤマト政権、飛鳥時代の政治改革、律令国家、奈良時代の政治・文化について出題した。個々の歴史用語を確認するだけでなく、日本列島における政治的統合と中央集権国家の形成過程を理解しているかを問うことをねらいとしている。また、『魏志』倭人伝など東アジアとの関係にも触れている。 第Ⅱ問 鎌倉幕府の成立から室町・戦国期までを対象とし、鎌倉幕府の政治制度、承久の乱や蒙古襲来、南北朝の動乱、応仁の乱などを取り上げた。年代、政治機構、政治勢力の変化を関連付けて理解しているかを確認し、朝廷と武家政権、幕府と地方武士との関係がどのように変化したのかを考えさせることをねらいとした。	問題Ⅰ 原始・古代の歴史、特に人類の進化の歴史、古墳からの出土品、古墳時代の習俗や当時の国際関係などについて、人類の進化過程を把握しているか、大陸との関係を理解しているかなど、基本的な知識からより踏み込んだ知識や理解力を問うものである。 問題Ⅱ 中世の歴史、特に鎌倉時代から室町時代への移行期、室町幕府の組織について、貴族社会と武家との関係を理解しているか、室町幕府の仕組みを理解しているかなど、基本的な知識からより踏み込んだ知識や理解力を問うものである。 問題Ⅲ 近世の歴史、特に織豊期における我が国が統一される過程における様々な合戦や経緯について、織田氏から豊臣氏への流れを理解している	学習指導要領（公民）の次の事項に関連した出題となっている。 第1問 「公共の扉」－青年期を生きる私たち 第2問 「公共の扉」－私たちの政治／近代民主主義 第3問 「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」－人権の保障 第4問 「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」－国際社会での安全保障 第5問 「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」－市場経	問題1 16世紀の宗教改革と対抗宗教改革、スペインの発展を通じて、宗教・政治・国際関係の変化について、基礎的な知識と理解を問うものである。 問題2 フランク王国の発展と中世ヨーロッパの封建社会、キリスト教を基盤とした学問や建築文化について、基礎的な知識と理解を問うものである。 問題3 メソポタミア文明とエジプト文明の成立と発展を中心に、古代社会の政治・文化・宗教の特徴や、一神教の成立についての理解を問うものである。 問題4 19世紀後半以降の帝国主義と植民地支配、第二次世界大戦後の民族独立運動を通じて、国際秩序の変化と	問題Ⅰ 東南アジア世界の形成と展開の基礎力及び歴史的展開の理解力を問うものである。 問題Ⅱ 近代化が進む日本とアジアの中で、日清戦争後の歴史的展開の理解と論理的思考力を問うものである。 問題Ⅲ 13世紀から14世紀以降のヨーロッパ各国の王の歴史的展開の理解と論理的思考力を問うものである。 問題Ⅳ 古代ローマ文化に関する基礎力及び用語の理解力を問うものである。

科 目	日本史（前期）	日本史（後期）	公民（前期）	世界史（前期）	世界史（後期）
	第Ⅲ問 江戸時代の農村支配、対外政策、田沼意次の経済政策、化政文化を取り上げた。幕藩体制の政治的側面だけではなく、年貢・村請制、商業政策、長崎貿易など、経済や流通との関係を重視している。特に田沼政治については、商業や流通を幕府財政に活用しようとした政策を問うことで、商学部の入試として経済政策の歴史的な意味を理解しているかを確認する構成とした。文化史についても、都市や町人社会の発展と関連付けて理解する力を求めた。 第Ⅳ問 明治維新から平成期までを対象とし、近代国家形成、大正デモクラシー、戦後外交、高度経済成長、現代政治・社会について出題した。明治初期の制度改革については、出来事を年代順に捉える力や、地租改正と近代的な財政・土地制度との関係を確認した。また、大正期の政党政治、戦後の国際関係を経て、高度経済成長、石油危機、プラザ合意など戦後経済の変化を取り上げた。特に経済・産業・国際関係を比較的厚く出題することにより、現代日本の政治・経済・社会がどのような歴史的過程を経て形成されたのかを総合的に理解しているかを問うことをねらいとした。	か、宗教勢力がどのように衰退していくのかを理解しているかなど、基本的な知識からより踏み込んだ知識や理解力を問うものである。 問題Ⅳ 近代の歴史、特に明治維新後に明治政府が行った国内政策と対外政策、とりわけ不平等条約改正への経緯や、明治政府が行った近代化について理解しているかなど、基本的な知識からより踏み込んだ知識や理解力を問うものである。 問題Ⅴ 現代の歴史、特に第二次大戦直後の国内の復興の経緯とその基礎となった各法制度への理解、その頃の国際関係について、年表の形で辿り、戦後の民主化および国際社会への復帰に関して時代の流れを理解できているかなど、基本的な知識からより踏み込んだ知識や理解力を問うものである。	済の機能 第6問 「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」－課題探究活動の展開	新興独立国の動向についての理解を問うものである。 問題5 20世紀以降の中国における政治体制の変化と経済発展、台湾の政治的変遷を取り上げ、東アジアの近現代史と国際関係についての理解を問うものである。 問題6 20世紀後半以降の地球環境問題と国際社会の対応を取り上げ、持続可能な開発の理念や気候変動対策に関する国際的な取り組みについて、基礎的な知識と理解を問うものである。	